

ITSSベーシックコース 教育制度と教材について



スキル標準ユーザー協会

教育推進委員会

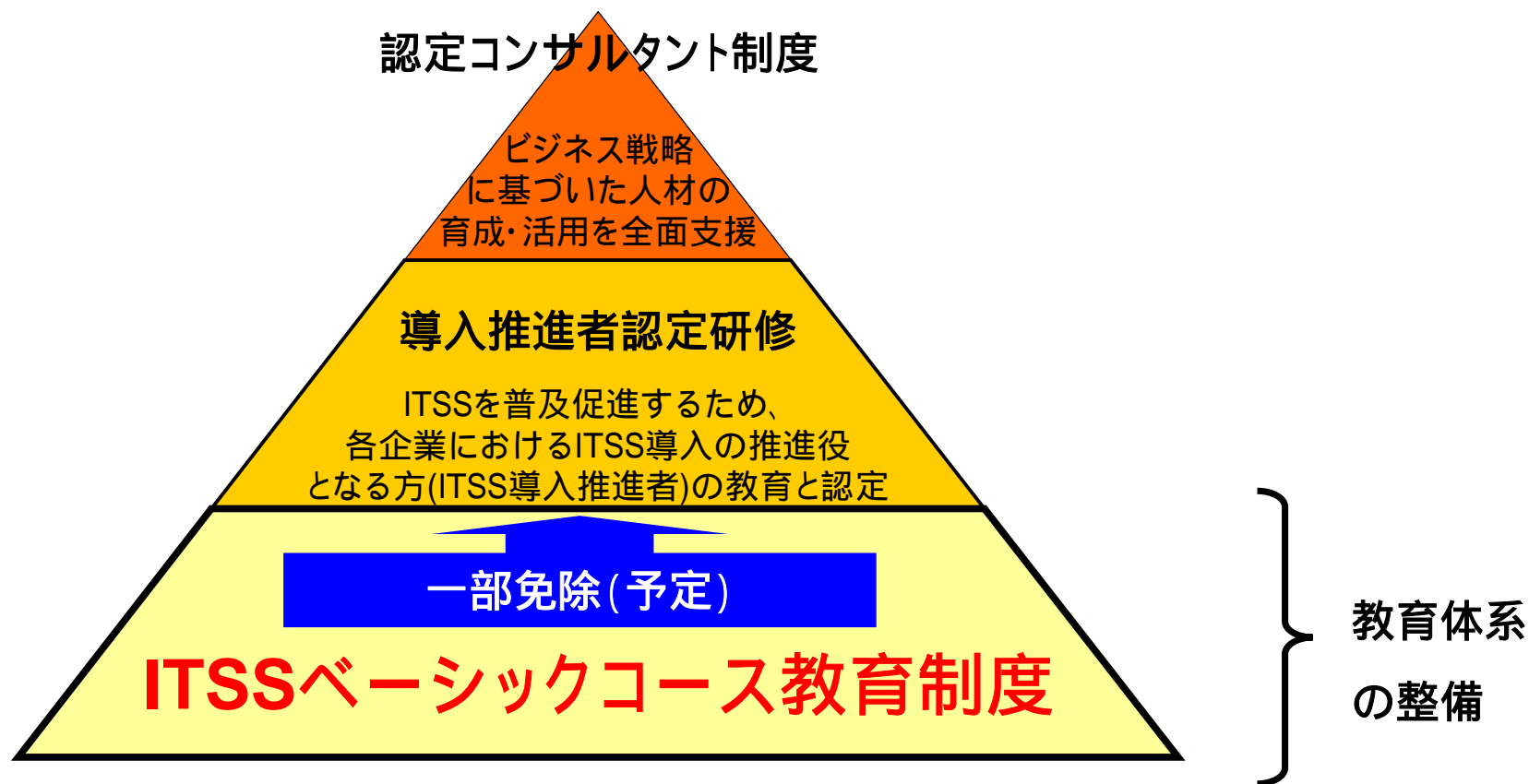
西川靖俊

株式会社CXO

項目

- 1 . ITSS のカリキュラム体系
- 2 . ITSS ベーシックコース教育制度
- 3 . 登録インストラクター制度
- 4 . 認定校制度
- 5 . ITSS ベーシックコース講座の開催
- 6 . ITSS ベーシックコース教材の概要

1.ITSSのカリキュラム体系



導入推進者研修～ ITSSベーシックコースまでの一貫した教育制度を整備する

2.ITSSベーシックコース教育制度



趣旨・目的

これからのIT高度人材の育成のための手助けとなるITSS(ITスキル標準)を、広くかつ正しく理解してもらうことは、今後の人材育成には欠かせないことです。ITSSベーシックコースはそのための土台とも言うべきITSSの基礎知識の習得を目的に作成されました。ITSSベーシックコース教育制度では、インストラクターの養成と登録制度、研修を開催する認定校制度を通して、ITSSの普及を促進します。

ITSS教育研修小委員会メンバー(平成20年4月 発足時)

- ・株式会社日立インフォメーションアカデミー
研修部 武重 勉
- ・株式会社日立システムアンドサービス
人事総務本部 人財教育部 二和田 寛、和田 修一、小嶋 美代子、志水 信幸、
- ・プロソフトトレーニングジャパン株式会社
経営企画室 遠藤 直、教育開発本部 鈴木 範子
- ・株式会社CXO
西川 靖俊、菅野 栄作

受講のメリット

- ・上位認定研修である導入推進者認定研修の一部受講免除(予定)
- ・主催者毎の異なるカリキュラムの選択
- ・ITSSユーザー協会からの修了証の発行

3. 登録インストラクター制度

ITSSベーシックコース インストラクター登録制度

一定スキルのあるインストラクターを育成し、ITSSベーシックコースの普及をはかる
ベーシックコースインストラクター登録制度

登録インストラクターの特典

最新カリキュラムの提供
講義スライドの提供

用語集の提供
コミュニティの提供

ITSSユーザー協会ホームページに登録インストラクターを公開予定(希望の方のみ)。

登録の条件

- (1) 企業で1年以上のインストラクターの経験があり、十分な講師経験を有すること。
(所定の書類によりITSS教育研修小委員会が確認させていただきます)
- (2) インストラクター研修 を修了していること。
- (3) インストラクター更新研修 を原則年1回受講すること。

…インストラクター(更新)研修は、ITSS教育研修小委員会が認定する会員企業にて開催されます。

第1回インストラクター研修は、10月に東京で開催

登録インストラクター(平成12年12月1日現在)

14名

4. 認定校制度



ITSSベーシックコース 認定校制度

ITSSベーシックコースの講座を開催できる団体を認定し、講座の実施を支援します。

認定校の特典

公式カリキュラムに基づく研修の実施

教材(公式カリキュラム準拠)購入割引制度

カリキュラム毎のITSSユーザー協会認定の修了証の発行(別途費用)

認定の基準

- (1) ITSSユーザー協会の法人会員であること。
- (2) 教育プログラム運営に必要な人員、組織等が整っていること。
- (3) 講座開講のための施設等が整っているか、十分な施設等を用意できること。
- (4) 登録インストラクターを準備できること。(外部への依頼も可)
- (5) ITSSベーシック教材を使用すること。

認定期間と費用

認定期間は、認定の日から「2年間」となります。

認定および更新に関する事務手続費用は、「3万1,500円」です。(消費税込み)

5.ITSSベーシックコース講座の開催



認定校とそれ以外の団体による分類

実施パターン	認定校		非認定校	
	企業 (研修事業者含む)	教育機関 (専門学校等)	企業 (研修事業者含む)	教育機関 (専門学校等)
組織内に登録インストラクターがいる	コース(講座)の外販 (例:公開講座、顧客先での講座開催、等)		×	×
	組織内でのコース(講座)開催			
	登録インストラクターの派遣			
組織内に登録インストラクターがいない	コース(講座)の外販 (例:公開講座、顧客先での講座開催、等)		×	×
	組織内でのコース(講座)開催			
	登録インストラクターの派遣	×	×	×

- …実施できる。プラス認定校の特典付与(公式教の割引購入可、講座修了者に修了証発行、等)。
- …実施できる。但し認定校の特典は付かない。
- …登録インストラクターを調達するか、認定校に依頼することで、実施できる。
- ×…原則として、実施できない。

第1章 ITSSの構造

第2章 ITSSの背景

第3章 ITSSの導入と活用

一般共通の視点、社員の立場と視点

第4章 ITSSの導入と活用

企業の立場と視点

第1章 ITSSの基本構造を理解できる。

ITSSの基本構造を理解し、部下に説明できる

第2章 企業がなぜITSSを導入しているか理解できる。

IT業界の状況、高度IT人材育成とITSSの必要性、部下の育成のためのITSSと企業の考え方を理解し、説明できる。

第3章 ITSS導入の目的、個人のスキルを活かすためのスキル構造を理解できる。

ITSS導入の留意点、導入から実践の具体的な流れやポイントを理解できる。

ITSSを利用した人材育成の考え方を理解し、ITSSのメリットを説明できる。

第4章 人材開発に対する考え方の変化を知り、具体的な人材マネジメントの方法を理解できる。

ITSS導入の留意点を理解できる。

経営戦略に基づいた人材育成(目標人材モデルの策定)、ITSSを利用した人材調達(必要人材モデルの策定)の方法を理解できる。

2008/12/11

第1章 ITSSの構造



内容

1. ITSSの基本構造
2. ITSSの概念構造
3. ITSSの構成要素 = キャリア編
4. ITSSの構成要素 = スキル編
5. ITSSの留意点・課題

「概要編」、「スキル編」、「キャリア編」の3部と、「付属書」からなる、ITSSのドキュメント体系、ITSSの概念構造から解説しています。

次に、「スキル編」、「キャリア編」の構成要素である、スキルディクショナリ、達成度指標、キャリアフレームワーク、スキル熟達度などについて、その構造、考え方について解説しています。

本章の最後では、企業と個人(社員)の双方に対して、キャリア形成のナビゲーションの役割を果たすことを目的とした、ITSS活用の留意点と課題をまとめています。

第1章 目次・構成



1. ITSSの基本構造

1.1 ITSSのドキュメント体系

1.2 「キャリア編」～ビジネスの各局面に応じた専門職種を定義～

1.3 「スキル編」～成果達成のために習得必要なスキル/知識を定義～

2. ITSSの概念構造

2.1 人材能力の捉え方の構造

2.2 ITSSの概念構造

3. ITSSの構成要素＝キャリア編

3.1 キャリアフレームワークの概要

3.2 職種の概要

3.3 達成度指標の概要

3.4 ビジネス貢献を評価する三つの項目

3.5 プロフェッショナル貢献の評価方法

4. ITSSの構成要素＝スキル編

4.1 スキルディクショナリ

4.2 スキル熟達度

4.3 スキル領域

4.4 研修ロードマップ

5. ITSSの留意点・課題

5.1 ITSSの評価尺度の内容と使い方

5.2 ITSSに対応した評価

5.3 ITSSのレベルイメージ

5.4 ITSSが扱っていない範囲

第2章 ITSSの背景



内容

第2章 ITSSの背景

1. 「新経済成長戦略」が示す、これからの日本
2. これからの情報サービス産業とITSS
3. 高度IT人材育成をめざして
4. なぜ、ITSSが必要なのか
5. ITSSの狙い

「新経済成長戦略」が示す、これからの日本の中長期戦略から、ITSSの誕生と関係
を解説します。

ITSSを一時的な政策と考えるのではなく、昨日ー今日ー明日の中で役割を見ていく
必要性と本質を解説します。

そのような環境の中で、「なぜ、ITSSが必要なのか」、「ITSSがどのように人材育成
に役立つか」を、新経済成長戦略とITSSを説明しています。

また、これからの情報サービス産業の課題とITSS、高度IT人材育成の現状と課題を
解説しています。

第2章 目次・構成



1. 「新経済成長戦略」が示す、これからの日本
 - 1.1 新経済成長戦略とITSS
 - 1.2 新経済成長戦略の目指すもの
2. これからの情報サービス産業とITSS
 - 2.1 情報サービス産業の現状
 - 2.2 ITによる生産性の向上
 - 2.3 ビジネス・イノベーションとCIO
3. 高度IT人材育成をめざして
 - 3.1 IT人材を巡る構造変化
 - 3.2 高度IT人材育成の現状と課題
4. なぜ、ITSSが必要なのか
 - 4.1 情報サービス産業の環境変化
 - 4.2 事業戦略に基づく人材育成投資の必要性
5. ITSSの狙い
 - 5.1 ITSSによる人材育成
 - 5.2 多様化するスキルとキャリアパス
 - 5.3 人材育成とITSS
 - 5.4 ITSSは、どんなメリットをもたらすか

第3章 ITSSの導入と活用

一般共通の視点、社員の立場と視点



内容

1. 一般共通の視点
2. 社員の立場と視点

第1章と第2章では、ITSSの仕組みと必要性と狙いを説明しました。
第3章と第4章では、それぞれの立場から具体的なITSSの導入の仕方について考えていきます。

導入の仕方は、それぞれの立場により視点が異なります。

(~ に)一般共通の立場
社員の立場
企業の立場
調達の立場

第3章では、一般共通の立場と視点、社員の立場と視点から、ITSSを導入する目的、導入方法、手順などを解説しています。

第3章 目次・構成



1. 一般共通の視点

- 1.1 ITSS導入の目的
- 1.2 ITSSをどのように活用すべきか(IPA出典より)
- 1.3 ITSSの導入手順
- 1.4 ITSS導入の方法

2. 社員の立場と視点

- 2.1 企業の人材戦略と社員(個人)のキャリア開発
- 2.2 ITSSを活用したキャリア開発とスキル開発の考え方
- 2.3 職位とスキルの関係
- 2.4 人材像を構成するスキル構造

内容

1. ITSSの人材開発への活用について
2. 人材マネジメントへの活用
3. ITSS導入の課題
4. 経営戦略に基づいた人材育成 = 目標人材モデルの策定
5. ITSSを利用した調達 = 必要人材モデル

第4章では、企業の立場と視点、調達の立場と視点から導入・活用方法を解説していきます。

ITSSの活用による、エンジニアのやる気を阻害する要因の解決や、人材マネジメントの「見える化」など具体例やチェックリストを使って、企業の立場と視点からのITSSの導入と活用について解説しています。

また、「要求モデル」、「ファンクションモデル」の例を示し、経営に基づいた人材の育成のための「目標人材モデル」の策定手順を示しています。

プロジェクトを円滑に遂行し、成功に導くための人材像として位置づけられた「必要人材モデル」を示し、ITSSを活用した調達について説明しています。

第4章 目次・構成

- 1. ITSSの人材開発への活用について
 - 1.1 ビジネス・イノベーションを駆動するITSS活用
 - 1.2 人材開発の考え方に対する変化
 - 1.3 ITエンジニアのやる気を阻害する要因
 - 1.4 ITSS活用による阻害要因の解決例
- 2. 人材マネジメントへの活用
 - 2.1 人材マネジメントの「見える化」
 - 2.2 人材マネジメントのP-D-C-A
 - 2.3 人材マネジメント力の自己診断チェック
 - 2.4 ITSSの人材マネジメントへの活用
 - 2.5 ITSS導入の目的
- 3. ITSS導入の課題
 - 3.1 ITSSの具体的導入・活用
 - 3.2 ITSS導入前のチェックリスト
 - 3.3 ITSS導入実施上のポイント
- 4. 経営戦略に基づいた人材育成 = 目標人材モデルの策定
 - 4.1 ITSS導入の流れ = 目標人材モデルの策定
 - 4.2 要求モデルの例
 - 4.3 目標人材モデル設定手順
 - 4.4 「To - Be」ファンクションモデルの例
 - 4.5 企業ごとのキャリアフレームワークの例
 - 4.6 企業独自のキャリアフレームワーク
 - 4.7 導入アプローチと運用
- 5. ITSSを利用した調達 = 必要人材モデル
 - 5.1 必要人材モデルの考え方
 - 5.2 調達要員の考え方
 - 5.3 コミュニケーションツールとしてのITSS
 - 5.4 社内共通語としてのITSS

2008/12/11

ご清聴、ありがとうございました。

詳細お問い合わせにつきましては、下記までお願いいたします。

お問合せ先: ITSS教育研修小委員会
事務局(株式会社CXO内)

TEL: 03 - 5823 - 1145

FAX: 03 - 5823 - 1147

E Mail: info@cxo.co.jp

URL: <http://www.cxo.co.jp/>

受付時間 9:30 ~ 17:30(土曜、日曜、祝祭日、年末年始を除く。)